

防災教育の実践

小千谷市立南小学校

今年度、児童生徒・職員の防災意識や危機管理能力を高めるため、合同避難訓練・休憩時間中の避難訓練など南中学校と合同で計画を立て実践してきた。また、児童が体験を通して学ぶことを重視し、日々の防災教育の実践に取り組んできた。

南小学校 防災教育の指導の重点

災害から自らの生命を守るために必要な能力や態度を身に付け、防災意識を高めるとともに、「生命尊重」の心を育む。

【小中合同避難訓練】

南小学校は、中学校と校舎を共用しており、合同で避難訓練を行っている。令和7年度は6月（火災）、11月（地震）の2回実施した。

1回目の避難訓練では、火災を想定し小中合同での職員、児童生徒の動きを確認した。その後、消防署員の指示のもと消火体験を行った。

2回目の避難訓練では、休憩時間中の地震発生とそれに続く火災を想定し、とっさの場合に児童生徒が自ら考え、正しい避難の仕方で行動する力を高められるようにした。



消火体験の様子

【校外学習を利用した防災教育】

本校では、様々な災害の脅威を実感し、災害から自らの生命を守るために必要な能力や態度を身に付けるため、校外学習で非常時対応の活動を位置付けている。

3年生の総合学習では「そなえ館」見学を行い、中越大震災に際しての市民の苦労や復旧への努力、災害に関する知識や施設設備の役割等について学習してきた。

6年生の東京への修学旅行では、防災体験学習「そなエリア東京」を訪れ、防災体験学習を行った。出発前に中越地震について事前学習し、「そなエリア東京」で地震・津波発生時の避難体験学習を行ったことで、地震に付随して発生する土砂災害、津波災害についての理解を深める効果的な学習となった。



3年生 そなえ館見学



6年生 そなエリア東京見学

【校内における防災教育】

本校では、9月を「南小学校防災教育月間」、10月23日を「中越大震災の日」と定め、「新潟県防災教育プログラム」を活用して全学年で防災教育を実施している。南小学校防災教育月間では、学習

参観で、防災教育の授業を保護者に公開することで保護者の防災に対する意識を高め、成果を家庭に向けて発信することで学校と家庭とが防災への共通理解をもてるようにした。また、海や川での水難事故防止の観点から、着衣泳の授業を全学年で行っている。



防災の授業



着衣泳